

安達洋祐（著）

消化器外科のエビデンス 気になる 30 誌から（第 2 版）

森 正樹

大阪大大学院教授・消化器外科学

安達洋祐先生はこれまでにいくつかの消化器外科学，あるいは医学教育に関する書籍を著してきました。それらはこれまでの本とは異なり，全く新しい視点から書かれたもので，それが多くの消化器外科医の心をつかみ，この分野としては異例の増刷が繰り返されていると聞いています。

今回，彼は国際的に認知されている一流の 30 誌を選び，そこに発表された論文の中から，消化器外科に関連した 7,200 余りの論文を抽出し，読破し，項目別に整理し，そしてまとめ上げました。そしてこの本が出版される運びとなりました。

本書は大，中，小の項目から成っています。大項目は「食道胃外科」「大腸外科」「肝胆膵外科」「手術患者」「がん患者」の 5 項目であり，それぞれ 6 つの中項目から構成されています。そしてその中項目はさらに 2～6 つの小項目から成っています。

「手術患者」という大項目は珍しいため少し紹介させていただくと，「術前管理」「術後管理」「薬剤投与」「血液製剤」「保存療法」「病院規模」という 6 つの中項目から構成されています。6 番目の「病院規模」を例にとると，①大きな病院，②食道胃手術，③大腸手術，④肝胆膵手術，⑤手術経験，⑥病院環境，という小項目から成っています。さらに「⑤手術経験」の項目を細かくみると，「外科医の手術経験と手術成績」「心臓手術経験と手術成績」「がん手術経験と手術成績」「若い外科医の手術成績」「年輩外科医の手術成績」「外科

医の臨床判断」「患者への説明や助言」「医師の外見や白衣」「医師の内面や心得」といった項目が並んでいます。いずれも興味深く知りたいことばかりですが，通常はまとめるのに苦労しそうなポイントを上手にまとめ，わかりやすくしているのはさすがです。例えば年輩外科医の手術成績は本人が思っているほどには良くはなく，頭脳と体力が乖離する傾向にあるようで，自戒させられます。

本書には至る所に著者の細やかな心遣いがみられます。7,200 余りの引用論文には筆頭著者名の後に国名が記されており，どの国からの論文かがわかるようになっています。最近のグローバル化に伴い，筆頭著者名だけでは施設の所属国がわかりにくい場合が多々あるため助かります。これにより国の勢いをみることもできます。また，日本からの論文はアメリカに次いで多いため，今までに論文を発表してきた読者（消化器外科医）は自分の論文が引用されているか，調べる楽しみもあると思います。もしも今回引用されていなければ，次回の第 3 版出版の際には引用されるような論文を発表したい，と思わずにはいられないでしょう。

また，「偉大な先人」と「研究のヒント」というコーナーを設けており，本書にさわやかな風を運んでいるようです。前者は消化器外科の発展をみる際，欠かすことのできない 10 人の日本人と 20 人の外国人を紹介するもので，胃カメラの宇治達郎，橋本病の橋本策，直腸癌分類のデュー

クス，麻酔のモートンなどが簡潔に紹介されています。消化器外科医たるもの，ぜひ知っておきたい先人ばかりです。また，後者は著者自身の英語論文 30 編について短く紹介したものです。私はある時期，著者と一緒に机を囲んだことがあります。その際，彼が学問の好奇心にあふれ，見るもの，聞くもの，何か新しいものはないかという視点で物事を見ること，そしてわき起こる疑問を真摯に調べ，まとめ，発表していく姿勢を垣間見てきました。このような中から英語論文として彼が発表してきたものを紹介しています。彼自身の，あいまいなものを明確にしたい，わかっていないことを明らかにしたい，との強い思いから生まれた論文であり，これから羽ばたく若い消化器外科医にはぜひ考え方を参考にしてほしいと思います。

本書は著者の学問に対する真摯な姿勢によって，最新文献がくまなく読み解かれ，咀嚼され，そしてわかりやすく再構築されたものです。消化器外科医にとって真に必要な内容を含んでおり，日常の臨床に間違いなく役立つと確信しています。

最後に，本書の印税はすべて東日本大震災関係に寄附されとのこと。あらためて犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

●B5/頁 532/2011 年/定価 9,975 円
(本体 9,500 円+税 5%)

[ISBN978-4-260-01376-5]

医学書院 刊